

ESET Server Security for Linux

オンラインヘルプ補足資料

■本書について

- 本資料は、ESET Server Security for Linux（以降、ESSL）のオンラインヘルプの内容を補完する位置づけの資料です。ESSL を使用する際には、下記オンラインヘルプも併せて参照ください。

<https://help.eset.com/essl/9/ja-JP/>

- 本資料には、ESSL の管理製品である ESET PROTECT(以降、EP)の基本的な機能や用語に関する説明はありません。EP の基本的な機能や用語については、EP のマニュアルやオンラインヘルプを参照ください。
- 本資料は、本資料作成時のソフトウェア及びハードウェアの情報に基づき作成されています。ソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトウェアに搭載されている機能及び名称が異なっている場合があります。また本資料の内容は、改訂などにより予告なく変更することがあります。
- 本資料の著作権は、キャノンマーケティングジャパン株式会社に帰属します。本資料の一部または全部を無断で複写、複製、改変することはその形態を問わず、禁じます。
- ESET、ESET Server Security for Linux、ESET PROTECT、ESET Management Agent は ESET, spol. s. r. o. の商標です。

■注意事項

オンラインヘルプの注意事項を以下に記載します。
オンラインヘルプに記載されている内容と異なる場合、本資料に記載された内容を正とします。

[要件とサポート対象の製品]

- 日本では以下のオペレーティングシステムがサポートされます。

OS	SELinux	SecureBoot
RedHat Enterprise Linux (RHEL) 7 64-bit	○	○
RedHat Enterprise Linux (RHEL) 8 64-bit	○	○
CentOS 7 64-bit	○	○
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12 64-bit	-	○
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 15 64-bit	-	○
Amazon Linux 2	-	-

- 管理コンソールの要件は、以下になります。

- ・ ESET PROTECT バージョン 8.1 以降
- ・ ESET Management Agent バージョン 8.1 以降

- サポートされている言語は、日本語(日本)になります。

[サービスを購入する方法]

- サポートへ問い合わせをする場合、「お問い合わせ」に記載のリンクページではなくユーザーズサイトの「サポート情報」の欄を参照してください。

改訂日 2022/4/26

目次

1	パッケージ	5
1.1	前提条件パッケージ	5
1.2	導入パッケージ	6
2	Web インターフェース	7
2.1	Web インターフェースの有効化	7
2.2	Web インターフェースポートの変更	7
2.3	Web インターフェースパスワードの変更	8

1 パッケージ

インストールについては、オンラインヘルプの「インストール」の項目を参照してください。ここでは、主に導入における前提条件や製品の注意事項、オンラインヘルプに記載のない補足事項について記載します。

本製品を導入する前に、OS の最新アップデートをインストールしてください。

1.1 前提条件パッケージ

本製品を導入するにあたり前提条件は以下となります。ESSL をインストールする前に以下パッケージがインストールされていることを確認ください。

また、以下記載のパッケージバージョンは予告なく変更する場合がございます。予めご了承ください。

- kernel 3.10.0-514 以降または kernel 4.18.0-80 以降のバージョンが導入されていること
- AWS kernel の場合、kernel 4.14.231-173.360 以降のバージョンが導入されていること
- glibc 2.17 以降のバージョンが導入されていること
- elfutils-libelf-devel が導入されていること (RHEL8, Amazon Linux2 のみ必要)
- libselinux が導入されていること
(RHEL, CentOS, Amazon Linux2 のみ必要。最新パッケージをご利用ください)
- selinux-policy-devel が導入されていること (SELinux 有効で利用される場合)
- en_US.UTF-8 エンコーディングロケール

!重要

ELREPO カーネルを使用した Linux ディストリビューションはサポートされていません。
オペレーティングシステム保護プロファイル(OSPP)の RHEL はサポートされていません。

1.2 導入パッケージ

ESSL をインストールするコンピューターには「1.1 前提条件パッケージ」に記載されているパッケージのほかに以下のパッケージも導入されます。

- RHEL, CentOS, SUSE Linux, Amazon Linux2 共通でインストールされるパッケージ
 - openssl
 - kernel-devel
 - gcc
 - perl
- 上記以外の RHEL, CentOS, Amazon Linux2 にインストールされるパッケージ
 - kernel-headers
- 上記以外の SUSE Linux にインストールされるパッケージ
 - kernel-default-devel
 - kernel-macros
 - linux-glibc-devel

ワンポイント

OS リポジトリに接続できる環境で「1.1 導入前提パッケージ」記載のパッケージが事前にインストールされている場合、ESSL インストール時に OS リポジトリより自動的に取得し導入します。
上記記載のパッケージと依存関連パッケージの導入が必要です。

!重要

ESSL は kernel のバージョンを揃えないとリアルタイムシステム保護を有効にすることができません。
必ず以下が揃っていることを確認してください。

■RHEL, CentOS, Amazon Linux2

- kernel
- kernel-devel
- kernel-headers

■SUSE Linux

- kernel-default
- kernel-devel
- kernel-default-devel
- kernel-macros

2 Web インターフェース

ESSL をインストールすると Web インターフェースが自動で利用可能になりますが、EMSC/EP からのリモートインストールでは Web インターフェースが有効ではありません。

特定のコンピュータで Web インターフェースを有効にする場合やアクセス方法について記載します。

詳しいオプションについてはオンラインヘルプの「コマンドと ESET Server Security 8 for Linux」を参照してください。

2.1 Web インターフェースの有効化

Web インターフェースを有効にするにはターミナルウィンドウから次のコマンドを実行します。

```
sudo /opt/eset/efs/sbin/setgui -gre
```

Web インターフェースが有効化され、URL、ユーザー名、パスワードが表示されます。

```
[root@ ~]# sudo /opt/eset/efs/sbin/setgui -gre
GUIが有効です。
URL: https:// [redacted] 9443
ユーザー名: Administrator
パスワード: 9DatmYhk
```

2.2 Web インターフェースポートの変更

Web インターフェース既定のポート「9443」を変更する場合は次のコマンドを実行します。

```
sudo /opt/eset/efs/sbin/setgui -i <IP アドレス>:<ポート>
```

Web インターフェースのポートが変更されます。

```
[root@ ~]# /opt/eset/efs/sbin/setgui -i [redacted] :8443
GUIが有効です。
URL: https:// [redacted] :8443
ユーザー名: Administrator
パスワード: ****
```

ポートを「8443」に
変更する場合

2.3 Web インターフェースパスワードの変更

Web インターフェースのログインユーザパスワードの失念や変更したい場合は以下のコマンドを実行することでパスワードを変更することができます。

```
sudo /opt/eset/efs/sbin/setgui -p "<パスワード>"
```

ログインユーザのパスワードが変更されます。

```
[root@ ~ ]# /opt/eset/efs/sbin/setgui -p "ESET"  
GUIが有効です。  
URL: https://:8443  
ユーザー名: Administrator  
パスワード: ESET
```

パスワードを「ESET」に
変更する場合